

# はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 平成31年4月26日 No.9



新学期がスタートしました。少しずつ児童生徒の様子が観察できるようになってきたと思います。今回は「〇〇ができる・できない」という現象だけではなく、その背景を探る必要性や、具体的な探し方について考えていきたいと思います。



## 特集 問題の背景を探る

### 1. 問題の背景を探る理由

なぜ問題の背景を探る必要があるのでしょうか？わかりやすく例をあげます。

授業中に大きな声を出して授業妨害のような行動をとる子どもがいたとします。何と声をかけますか？「授業中は静かにしましょう」「別の教室で少し落ち着いてみようね」「どうしたの？何で大きな声を出すの？」「ほら、みんなが困っているよ」などいろいろあると思います。授業の内容がわからなくて困っているのが本当の原因だとしたら、おそらく大きな声を出すことで「わからない」「授業がつまらない」を訴えているのかもしれませんが。そんな時に「静かにしようね」では、子どもの思いは理解されたことにはなりません。

子どもの置かれている状況や気持ちを理解して問題に対応しないと、問題が解決しないばかりか、悪化することも考えられます。

### 2. 問題の背景の探し方

「はばたきインクル支援だより」の第1号で「問題となる行動の機能分析」の簡易版をご紹介しますので、参考にしてください。（下図のような用紙です。）

また、ケース会のように、児童生徒にかかわる人が集まって、よいところや問題の様子について意見交換することも大切です。一人の目だと、一人分の観点でしか子どもを観察することができません。かかわる人が集まれば、その人数分だけ、子どもを豊かに捉えることができます。

担任の先生が、うまく行っていないということを周囲に伝えることは、つらさを伴うかもしれませんが。周りの先生から「指導力がないからだ」「前の担任の時は…だったのに」と思われることを心配してしまう気持ちが働くからかもしれません。しかし、周りの先生と問題を共有するこ

問題となる行動の機能分析 (Motivation Assessment Scale) 簡易版

児童生徒名	年 級

1. 問題となる行動を具体的に説明してください。  
 ※ 「いつ」「どこ」「何」を記入してください。「大抵は声を出さずにはいられない」「大抵は静かにいられない」など、具体的な状況を記入してください。

2. 問題となる行動の背景を探ってください。

※ 問題の状況（時間、場所、状況など）を記入してください。

3. 下記の質問について、紙の両面を参照して考えてください。  
 紙の両面に「0」～「5」の数字を記入してください。0は「絶対にない」、5は「絶対に全部ある」といいます。

0	1	2	3	4	5
① 本人の顔、表情、身振りが、問題行動と関連しているように見えますか？					
② 本人の態度、言葉遣い、声の大きさなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
③ 本人の服装、髪型、髪の色などが問題行動と関連しているように見えますか？					
④ 本人の行動、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑤ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑥ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑦ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑧ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑨ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑩ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑪ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑫ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑬ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑭ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑮ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑯ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑰ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					
⑱ 本人の態度、言葉遣いなどが問題行動と関連しているように見えますか？					

MAS 結果記録

児童生徒名	年 級

※ 問題となる行動の背景を探ってください。紙の両面に「0」～「5」の数字を記入してください。

問題	0	1	2	3	4	5
①						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						
⑯						
⑰						
⑱						

※ 問題となる行動の背景を探ってください。紙の両面に「0」～「5」の数字を記入してください。

問題	0	1	2	3	4	5
①						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						
⑯						
⑰						
⑱						

※ 問題となる行動の背景を探ってください。紙の両面に「0」～「5」の数字を記入してください。

とで、「私も〇〇さんに声をかけたら、こんな風に言われたことがあったよ」と共感してもらえ  
るかもしれません。担任一人では見えなかった様子も、複数ならば見ることがあります。

ひとりで支援をするのは大変なことです。当事者はうまく行かない状況にいっぱいいっぱい  
になってしまい、どうしてもゆとりをもって接することができなくなってしまいます。するとさらに  
問題がエスカレートする結果になりかねません。周囲からのフォローも必要です。

複数で情報を収集できるようにすることは、問題行動の背景を探る上で大切なことです。

### 3. 背景を探ったらどうすればよいのか？

「たぶんこれが原因ではないか？」という予測がいたら、それに即したかかわりをしてみ  
ます。例えば、先にあげた授業中に大きな声を出してしまうケースについて具体的にその先  
を考えてみます。

**座っていられなくて、イライラして大きな声を出しているかもしれない**

時間を見て、そろそろ集中が途切れて、座っているのが苦痛と思われる時間帯になったら、  
黒板に書くような活動を取り入れます。体を動かす活動を取り入れることで、気持ちが切り替  
わります。「丁寧に書けたね」などとほめられることで、イライラも軽減します。

**授業妨害をすることで、自分を認めてもらおうとしているのかもしれない**

大きな声を出している時に、一度は「もう少し小さな声で」と注意をします。しかし、このケ  
ースの場合は、さらに「うるせえんだよ」など言い返してきて、収まりがつかなくなるものが多く  
あります。あまり反応せずにやり過ごします。初めはさらに大きな声を出したり、友だちにちょ  
っかいを出すようになりますが、反応しないと、そのうちあきらめざるを得ないこととなります。  
一方、日常的に「提出物が出せていたね」「掃除を頑張っているね」など、よい行動をたくさん  
見つけ、それをほめることで、たくさんかかわるようにします。「よいことをすれば、先生も友だ  
ちも自分を認めてくれる」と考えるようにしていきます。

ポイントは以下の点です。

- ① 状況が問題の引き金になりそうな時には、予め対処しておきます。「やると思った…」と言  
う前に、やらなくて済むようにします。教員の話の聞きこぼしが多い子どもには「ここに書  
いておくね」などと声をかけます。注意欠陥などが原因と考えられる場合には、保護者と  
話し合い、医療につなぐことも検討します。問題を起こしている本人も苦しんでいることを  
理解します。
- ② 望ましい行動を伝えます。「〇〇はやめようね」だけだと、どうすればよいのかわらかな  
いままになってしまいます。問題を何度も繰り返してしまう背景に「どうすればうまくでき  
るのかわからない」ということも考えられます。適切な方法を伝えたり、一緒にやってみるこ  
とで、解決することもあります。うまくできたらほめます。
- ③ 1回目の方法でうまく行かないこともあることを理解します。この時も複数でかかわること  
で次なる支援法のアイデアを出し合うことができます。

**「インクル支援だより」のバックナンバーを見ることが**  
**できます。**

深谷はばたき特別支援学校のホームページを開けます。  
左側のメニューに「インクル支援だより」があります。(矢印のあた  
りにあります。)

担任の先生や保護者が子どもたちに接する時のヒントがありま  
す。ぜひ、ご覧ください。

インクル支援だよりは月1回発行の予定です。

